

令和5年度 第2回川口市医療的ケア児連絡協議会 報告

日 時：令和5年10月17日（火）
14時～15時30分

1 開会

2 あいさつ

3 協議・意見交換

(1) 医療的ケア児実態調査の結果報告

現在、障害福祉課が把握している医療的ケア児118名に対して、二次元コードを記載した調査依頼文を郵送し、インターネットから調査回答いただいた。送付118名に対し、回答があったのが47名で回収率は39.8%であった。電話希望は9件、訪問希望は10件ありそれぞれ対応した。障害福祉課担当ケースワーカーや川口市障害者相談支援センターの職員、保健センターの保健師等と同行し自宅訪問を実施した。

回答していただいた方の中で訪問を希望しない方については、その理由や背景をもう少し聞き取りできるとよいのではないか。医療的ケア児の預け先について、日中一時支援についても情報提供していくとよいのではないか。

(2) 災害時の備え・対応策等について

川口市では危機管理課を主として福祉部や保健部の各課の担当者を集めて、個別避難計画の作成をどのように行うか担当者会議を行っている。個別避難計画を作成する対象者は避難行動要支援者登録制度に登録していることが基本になる。これまで医療的ケアが必要な児童は保護者と生活しているため、対象者に入っていなかった。今年から、世帯の状況に関わらず重度の肢体不自由と重度の知的障害を併せ持つ方を対象に登録できるよう要綱を変えていく予定。併せて健康増進課では小児慢性特定疾病医療受給者証を持ち、24時間離脱困難な人工呼吸器等装着者、人工心臓の児童も世帯の状況に関わらず、対象とすることとした。

(3) その他

川口特別支援学校では、就学相談の際に、肢体不自由も併せ持つ児を受け入れられるかという相談は毎年ある。越谷特別支援学校では、痰吸引が頻回のお子様等はスクールバスの乗車が難しい。最近では訪問看護事業所に協力いただいて、通学支援（埼玉県立特別支援学校医療的ケア体制充実事業等）を利用している方が数名いる。川口市も法律に則って、学校に必要であれば学校看護師というものを配置しているが、看護師の確保や予算の確保の課題がある。

4 閉会